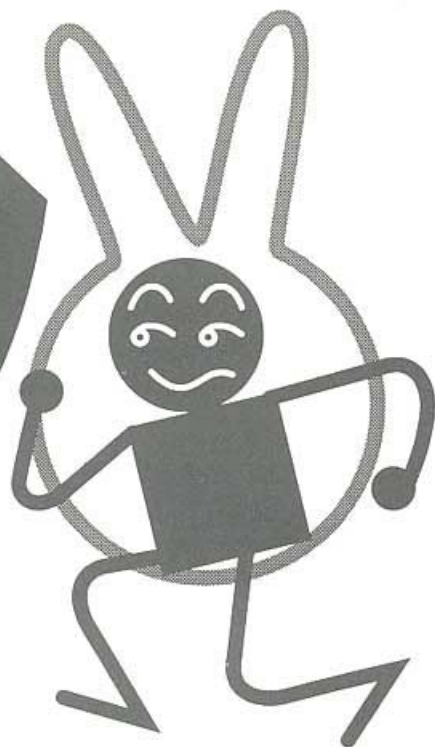


生活新聞

グレイ

ゾーン



「生活グレイゾーン調査」

- ・調査地域：首都圏（東京都内）
- ・調査対象：20代から50代の既婚男女400人。  
20代、30代、40代、50代、各100人。（各年代とも男女半数づつ）
- ・調査方法：郵送調査
- ・調査時期：1995年11月

# 「ひっかかる」けれど「しちゃう」 — それがグレイゾーン

鼻にピアスをしたり、おへそを出したり、茶髪で仕事をしたり、目上の人にタメ口をきいたり、以前では許されなかった行為も、時代とともに受け入れられるようになってくる。

今回は、こうした世の中にある、問題を含む様々な行為に対して、人々がどの程度まだ「ひっかかりを感じているのか（抵抗度）」、また、どの程度「実際に行っているのか（実行度）」を調査により明らかにしてみた。

まず、全体の傾向を探るために、調査した50項目の平均値を求めてみた。「かなりひっかかりを感じる」人の割合を「抵抗度」、「そういう行為をしている」人の割合を「実行度」と定義した。結果をみると抵抗度は、男性の32.6%に対して女性は42.5%と10%近くも高い。女性の方が、世の中の変化に保守的なのか、良識の度合いが高いのか、とにかく大きな男女差である。この傾向は、そういう行為をしてしまう実行度にもあらわれており、男性の37.7%に対して女性は29.2%しかいない。また、年代別にみると、抵抗度は年代が上がる程高くなり、逆に実行度は、年代が下がる程高くなる。つまり、女性と年代が高い人が、こうした問題行為に対して厳しい目をもっているということである。

次に、この抵抗度と実行度の関係をより明らかにするために、「抵抗度－実行度」の差から質問した50の項目を3つのゾーンに分類した。

●ブラックゾーン 「抵抗度－実行度」の差がプラス30%以上の項目（許されない行為）

●グレイゾーン 「抵抗度－実行度」の差がプラスマイナス30%未満の項目

●ホワイトゾーン 「抵抗度－実行度」の差がマイナス30%以下の項目（許される行為）

今回は、この中から、世の中で、いいとも悪いとも、はっきり白黒の判断がされていない領域、いかにも日本的なあいまいさをもつ「生活グレイゾーン」に注目してみた。以下、4つの生活領域に分けて、各ゾーンに入る具体的な内容についてみていこう。



**抵抗度（ひっかかり度）**  
そういう行為にかなり  
ひっかかりを感じる人の割合

**実行度（しちゃう度）**  
そういう行為を  
している人の割合



# ◆伝統的な習慣◆



抵抗度  
そういう行為に  
かなりひっかかりを感じる人の割合 (%)



実行度  
そういう行為をしている人の割合 (%)

ブラックゾーン  
(許されない行為)

結婚式に平服で行く



お中元・お歳暮などの  
お礼をしないている



パーティや会合などの案内状に  
出欠の返事を出さないている



お彼岸や命日にお墓まいりを  
しないている



親戚の子どもにお年玉を  
あげないている



畳の部屋でのかしまった席で  
足をくずす



プライベートな年賀状を  
印刷だけですます



何かの頼みごとを  
ファクシミリですます



(ファクシミリを  
持っている人のみにたずねた)

友人宅へ土産を持たずに行く



旅行に行った時(出張を除く)  
家にお土産を買わないで帰る



目上の人に対して  
敬語を使わずに話す



お通夜やお葬式の  
どちらか一方に参列する



年下の人との飲食を割り勘にする



知人についてのうわさ話をする



ホワイトゾーン  
(許される行為)

礼儀や気づかい、人とのつきあい方、冠婚葬祭など、伝統的な習慣に対する各ゾーンの状況をみてみよう。グレイゾーンに含まれる項目が多く、古くからの伝統が除々にくずれかけていることがわかる。冠婚葬祭では、「披露宴は平服でいらして下さい」といった案内状がよく届くが、結婚式に平服で行くのは、未だブラックゾーン。やはり、許されない行為なのである。これに対して、お通夜やお葬式のどちらか一方だけに参列するのは、すでにホワイトゾーンになっており、許される範囲に入っている。「忙しいからって、片方しか出ないなんて」といった非難の声はあたらぬ。今、グレイゾーンにいるのが、お墓まいりをしないことである。ただ、年代の若い方での抵抗度が低

いことから、今後ホワイトゾーン入りが予測される。

つきあい、礼儀・気づかいについては、かなりの行為がグレイゾーンの領域におちてきており、かつては伝統的習慣に反した行為であったものが、現在では許される行為になりつつあるようだ。一般的に男性にくらべて女性の方の抵抗度が高いが、これは伝統的習慣に反する行為をすることが、女性らしさに欠ける行為と見なされているのではないだろうか。反対に年下の人との飲食を割り勘にすることは、ホワイトゾーンに含まれる行為であるが、男性よりも女性の方により肯定的な見方をする人が多く、しっかりとした一面もみえる。

# ◆一般常識・マナー◆

**抵抗度**  
そういう行為に  
かなりびっくりを感じる人の割合 (%)

**実行度**  
そういう行為をしている人の割合 (%)

ブラックゾーン  
(許されない行為)

人前でキスをする



公衆電話で人が待っていても長電話をする



夜の12時以降に人に電話する



電車などの座席の狭いすき間に座る



混んでいる電車の中で足を組む



人との待ち合わせ時間に遅れる



配偶者以外の異性と  
夜遅くまで飲食をする



遊びで夜の12時以降に帰宅する



乗物の無賃乗車 (キセル) をする



電車などの中でマンガを読む



電車の中で捨ててある  
新聞・雑誌を拾う



外から見えるところに下着を干す



大きい通りで横断歩道でないところを渡る



夜の8時以降に大きい音でテレビやCDを聴く



電車などの中で携帯電話を使う



(携帯電話を使っている人ベース)

ホワイトゾーン  
(許される行為)

人に迷惑をかける行為、人目が気になる行為、明らかなルール違反といった一般常識・マナーについては、さすがにブラックゾーンに入るものが多い。一旦常識と認定されたものは、そう簡単には変わらないということだろう。

人目が気になる行為をみると、最近よくみかけるようになったが、人前でキスをするのは、まだまだ許されない行為である。ただ、異性と夜遅くまで飲食をすることや遊びで12時以降に帰宅することはグレイゾーンに入っている。これらの行為は、女性にはまだやや制約が強い面もあるが、昔にくらべれば世間の見目もやわらいできているようだ。また、電車などの中でマンガを読んだり、捨ててある新聞・雑誌を拾ったり、外から見るところに下着を干すといった、一見恥ずかしいと思われる行為もグレイゾーンに入っている。

迷惑行為では、公衆電話での長電話、夜の12時以降の電話、電車の中で座席の狭いすき間に座る、混んでいる電車の中で足を組む、待ち合わせの時間に遅れるなど、具体的に迷惑をかける相手が特定されるものについては、ブラックゾーンに入っている。しかし、夜8時以降に大きい音でテレビやCDを聴く、電車の中で携帯電話を使うといった具体的に迷惑をかける相手が不特定の場合は、グレイゾーンの行為となっている。ハッキリわからなければいいやといったこともかもしれない。

ルール違反では、罰金などの直接的なダメージが予測される乗物の無賃乗車 (キセル) は許されない行為である。ただ経験者は17.8%もいる。大きい通りで横断歩道でないところを渡ることは、まあしかたがないだろうということで許される行為となっている。



抵抗度  
そういう行為に  
かなりひっかかりを感じる人の割合 (%)



実行度  
そういう行為をしている人の割合 (%)

ブラックゾーン  
(許されない行為)

お年寄に席をゆずらないでいる



空きカンの投げ捨てをする



ゴミを分別しないで出す



乗物のシルバーシートに座る



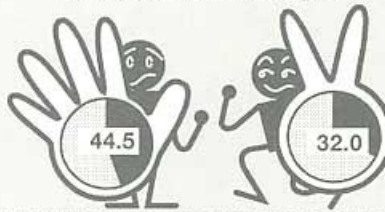
街の中で困っているお年寄に  
声をかけないでいる



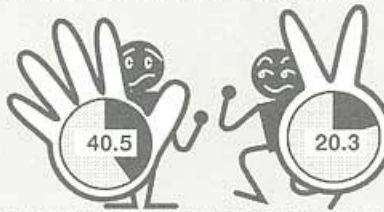
近所の人とあいさつを  
かわさないでいる



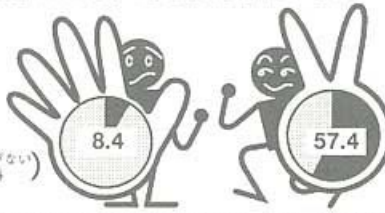
まだ使える家電製品や家具を捨てる



外国人に道をたずねられても知らんぷりする



自治会やPTAなどの役員を引き受けないでいる



共同募金(赤い羽根など)に協力しないでいる



ホワイトゾーン  
(許される行為)

(自治会やPTAがない  
という人は除外)

環境問題や高齢化、国際化といった大きな流れに対する動きをみると、似たようなものでも多少の違いで、ブラックゾーンとグレイゾーンに入るものが分かれる。この微妙な動きは、まだこの領域が確固たるゾーンをつくりあげていないことを意味している。

高齢化についてみると、お年寄に席をゆずらないでいることは許されない行為であるが、しかし、シルバーシートに座ってしまうことや街の中で困っているお年寄に声をかけないでいることは、グレイゾーンの行為となっている。目の前のお年寄には心くばりができるとしても、自分からはなれた存在であるお年寄に対しては、自発的、積極的には、手助けしようという気持ちはうすいようだ。しかし20代の人にとって、シルバーシートに座ることは許されない行為とみなされている。シルバーシートに座ること自体が、カッコ悪いという一面はあるかもしれないが、若い世代にもお年寄への思いやりの気持ちは残っているようだ。

環境・省資源では、空きカンの投げ捨てやゴミの分別をしないで出すことは許されない行為となっている。この項目は、以

前はグレイゾーンに入っていたものかもしれない。環境問題という意識が高まる中で世間から厳しい評価をされるようになったわけである。全体としてはブラックからグレイ、ホワイトといった流れがあるが、そういった意味では、これらは異色の項目ともいえる。ただ、まだ使える家電製品や家具を捨てることはグレイゾーンとなっており、もったいないという気持ちにゆらぎがみられる。粗大ゴミを出さないという見地からも、リサイクルなどの道が求められるだろう。

近所づきあいでは、近所の人とあいさつをかわさないでいることは許されないが、自治会やPTAの役員を引き受けないでいることは許される行為となっており、地域コミュニティへの参加の意識は低い。外国人に道をたずねられても知らんぷりするものはグレイゾーンであり、国際化がいわれる中で、まだまだ実態は進んでいないことがわかる。また共同募金(赤い羽根など)への協力をしないでいることは許される行為になっている。豊かさの中で「助け合い」という精神は消えてしまったのだろうか。

# ◆サービス・ギャンブル◆



抵抗度  
そういう行為に  
かなりひっかかりを感じる人の割合 (%)



実行度  
そういう行為をしている人の割合 (%)

ブラックゾーン  
(許されない行為)

下着をクリーニングに出す



パチンコをする



たどたどしい日本語を話す外国人店員の場合は  
日本人店員にかわってもらう



競艇をする



競馬をする



靴磨き屋さんに靴を磨いてもらう



できあいの惣菜を利用する



使いきり (使いすて) カメラを買う



旅行の荷物を宅配便で送る



電話帳をひかずに有料の番号案内を利用する



友人への祝電を電報の決まった文案にする



ホワイトゾーン  
(許される行為)

外部サービスについては、ほとんどのものがホワイトゾーンに入っている。かつては、手抜き、横着などといった非難の声もあったが、世の中に定着するに従い、抵抗感は消えてきた。ギャンブルについても、かつての暗いイメージは消え、グレイゾーン入りを果たしている。

パチンコ、競馬、競艇はともにグレイゾーンであるが、この3者の中では、競艇だけが女性や50代以上の人たちにとってはブラックゾーンとなっている。女性向けや明るいイメージ戦略によって成功したパチンコ、競馬にくらべるといま一步の感がある。ただ、全体としては、ギャンブルイコール賭け事という意味合いが薄れる今、あそびとしての位置づけによるホワイトゾーン入りも間近かもしれない。

たどたどしい日本語を話す外国人店員の場合、日本人店員にかわってもらうことは、外国人に道をたずねられても知らんふ

りをするのと同様にグレイゾーンである。国際化の進み中で、外国人に対するあたたかい目を持つことは必要と思われる。

また、生活の合理化にともなって、サービスの外部化も避け得ない現象である。さすがに下着をクリーニングに出すことだけは、恥という部分もあり、許されない行為である。また、ひざまずかせる姿勢に抵抗感があるのか、靴磨き屋さんに靴を磨いてもらうことはグレイゾーンになっている。ただ、できあいの惣菜を利用したり、使いきり (使いすて) カメラを買ったり、旅行の荷物を宅配便で送ったり、有料の電話番号案内を利用したり、祝電に決った文案を利用するなど、ホワイトゾーンに入っている。そして、抵抗感の数字も大変低い。サービスの外部化を求める行為には、性別、年代別に差がみられず、いまや日本人に共通した意識の底流となっているようだ。

## ◆抵抗度、実行度でヒトをきる◆

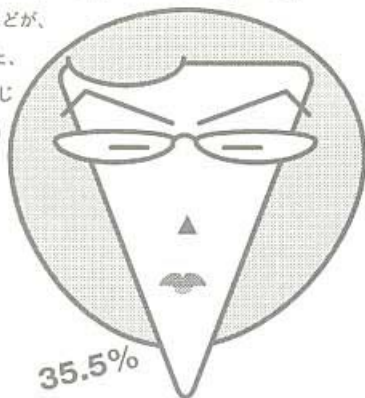
抵抗度と実行度の平均値から4つのタイプ分けを行った。抵抗度が高く、実行度の低い人を現状維持の「保守派」と名付けた。全体に占める割合は35.5%。女性、高年代、高所得者に多い。逆に、抵抗度が低く、実行度の高い人を革新的な「変革派」と名付けた。全体に占める割合は35.3%。男性、若い年代、高学歴者に多い。この2つのタイプは、ひっきりがあるから、やらない、ひっきりがないから、やるといったように意識と実態に矛盾がない人たちである。

りがあるのに、やってしまう)人をココロとカラダに迷いを生じ、葛藤の中で生きる「混迷派」と名付けた。全体に占める割合は14.3%。女性の割合がやや高いが、年代別には大きな差はなく、均等化している。最後のタイプは、抵抗度が低いのに、実行度も低い(ひっきりがないのに、やらない)人である。行動が消極的で、どうでもいいという態度の「無関心派」である。全体に占める割合は15.0%。所得がやや低いが、男女差はもともと少なく、年代も各層に平均している。

これに対して、抵抗度が高いのに、実行度も高い(ひっきり

### ◆保守派(とても、できません人間)

女性(66.9%)の割合が高く、学歴は高校卒(61.3%)の割合が高い。所得も1000万円以上(30.2%)が多く、製品の所有もファクシミリ(31.0%)、ワープロ(61.3%)、ポケットベル(23.9%)、カラオケセット(12.0%)などが、他に比較して高い。また、銘酒米(63.4%)、宝くじ(34.5%)、図書館(35.9%)などの利用が多い。年齢は、50代(32.4%)が多い。



35.5%

実行度  
低い

### ◆無関心派

(何も、しません人間)

男性(43.3%)、女性(56.7%)となっており、女性の方がやや多い。学歴は高校卒(41.7%)、大学卒(50.0%)となっており、大学卒の方がやや多い。所得は500万円未満(31.6%)、500~1000万円未満(46.7%)となっており、他にくらべてやや低い傾向がみられる。所有製品や利用しているサービスについて、他よりもきわだって高いものはない。年齢は、20代から50代まで各年代に均等化されている。



15.0%

抵抗度  
低い

### ◆混迷派(でも、しちゃう人間)

女性(61.4%)の割合が高く、学歴は高校卒(47.4%)と大学卒(45.6%)が半々である。職業は事務職(21.1%)が多く、所得も1000万円以上(35.1%)が多い。所有製品も、ファクシミリ(31.6%)、ワープロ(66.7%)、パソコン(43.9%)、携帯電話(24.6%)、ピアノ・オルガン(54.4%)が他に比較して多い。また、映画館(22.8%)、図書館(33.3%)、カラオケスナック(28.1%)、クレジットカード(49.1%)の利用が多い。年齢は、20代から50代までの各年代に均等化されている。



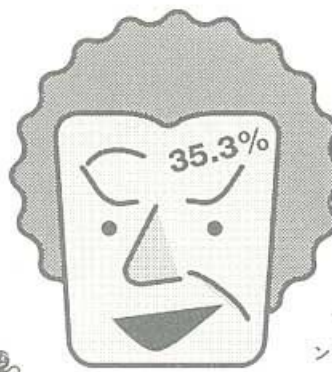
14.3%

実行度  
高い

### ◆変革派

(平気で、しちゃう人間)

男性(74.5%)の割合が高く、学歴は大学卒(51.8%)の割合が高い。事務職(20.6%)や管理職(22.0%)が多いが、所得は500~1000万円未満(57.4%)が中心である。出前(38.3%)、コンビニエンスストア(84.4%)、ファーストフード店(53.2%)、カラオケスナック(25.5%)などの利用が多い。年齢は、20代(31.9%)、30代(27.0%)、40代(24.1%)の順であり、50代(17.0%)は少ない。



35.3%

#### <4群分類の方法>

対象者400人について、抵抗度、実行度の分布を求め、それぞれの平均値を計算した。結果は、抵抗度(17.9点)、実行度(15.5点)であった。この平均値をもとに、対象者400人を抵抗度、実行度によって次のように分類した。

- ・保守派 — 抵抗度(18点以上)でかつ実行度(15点以下)
- ・変革派 — 抵抗度(17点以下)でかつ実行度(16点以上)
- ・混迷派 — 抵抗度(18点以上)でかつ実行度(16点以上)
- ・無関心派 — 抵抗度(17点以下)でかつ実行度(15点以下)

・今回の生活新聞は、(社)社会開発研究所にご協力いただきました。

# 生活太郎の「1995年、これだけ出たよ～」

## 生活新聞

210号◆あの戦争を知っていますか

戦後50年にあたり「あの頃」の常識調査を。

211号◆点と系  
生活予報の説明版。今を構造的に理解する。

212号◆呼び方調査  
生活者の人の呼び方。意外な事実が発覚。

213号◆平成サラリーマン憲法

勤め人の実態調査。87年との比較で鮮明に。

214号◆生活者希望価格  
生活者の思う値段は？87年との比較の中で。

215号◆バックスター族  
植物と語り出した人々の姿が意味するのは。

216号◆出戻り小町  
今面白い街は、どこだろう。タウン分析。

217号◆さあ、今日も『キドリ茶』して帰ろう  
屋外の喫茶が流行中。その実態を探った。

218号◆リ・セット  
阪神大震災4か月。現地取材の証言集です。

219号◆大田区型国際化の時代  
国際化の段階を探る。今は大田区的な段階。



220号◆情報生活  
調査年報の説明版。情報雄型と雌型を発見。

221号◆世の中激動・生活微動

臨時生活定時点調査。生活には落ちつきが。

222号◆モノは幸せか？  
モノの使いこなされ度合いを探る。商品論。

223号◆プライベート・ヘブン

自宅リゾート、浴室が変わる。その実態は。

224号◆ペリガ  
へそ出しのベリーガールたちの生態に迫る。

225号◆虚像の行進  
人々のイメージと事実のずれを調査した。

226号◆上定食時代  
良いモノを東ねた上定食が欲しい時代です。

227号◆プレジャー・ゲーム  
パチンコ、競馬などギャンブルの変化を。

228号◆生活グレイゾーン  
生活者の気持ちの中の灰色部分を調査した。

## 生活視点

1月◆もう亥々かい  
正月の新聞雑誌定時点調査。第15回目の報告。

4月◆生活映画館  
映画のビデオで戦後の生活変化を検証した。

7月◆HILLネット通信  
生活者の生の声がざっしりデータ集です。

10月◆アジア調査  
韓国・中国・ベトナム・タイとの比較調査。

12月◆豊かさを探る海外調査  
アメリカ・イタリア・タイの生活実態を探った。

査。雄型と雌型の存在が明らかになった。  
(定価 39,140 円税込)

## 英文レポート

*Middle Class at Last—The Second Baby Boomer Generation in Japan*

95年版調査年報「若者」に準拠。第二次ベビーブーム世代を独自分析をしました。  
(定価 36,050 円税込)

## 英文生活情報誌

*from the hill*

生活新聞等を元に生活総研を英文紹介。

NO.1 生活新聞210号～214号に拠る英語版の情報誌。

NO.2 生活新聞215号～220号に準拠。

NO.3 生活新聞221号～224号までと英文レポートの要約。

## 生活予報

95年版・点と系—生活の構造が変わる—塊と属の時代から、点化の進展へ。構造的な生活予報。使える。  
(定価 7,210 円税込)

96年版予報は25日発表

## 調査年報

情報生活—情報雄型と雌型の発見—  
2000人対象の徹底情報調

## デジタル生活総研

調査年報の「情報生活」がオンラインに。96年初荷としてコードブックもお手元に。